



向台

11月号

平成27年11月1日 中野区立向台小学校

丁寧に褒めて育てる

校長 郡 吉 範

「やってみせ、言って聞かせて、させてみて、褒めてやらねば、人は動かじ」

連合艦隊司令長官、山本五十六がしばしば口にしていた言葉として有名です。親や教育関係者のみならず、子どもや人を指導する立場のすべての人にとって指針とされることが多くあります。

しかし、私はこの言葉を聞くにつれ、少し悲しい気持ちになります。この言葉の意図することはとても共感するものですが、この言葉が使われていた時代背景を考えてしまいます。当時の軍隊は、怒鳴ったり時には殴ったりが当たり前のように横行していたと聞きます。「褒めてやる」などとはまったくかけ離れた世界だったはずで、軍隊に入った多くの若者は、その理不尽な仕打ちに苦しめられたと聞きます。海軍のトップがしばしば口にしていた言葉も、一番大切な隊員のレベルではまったく生かされるはず、無視されていたことになり、何のための言葉だったのだろうと考えてしまいます。偉い人の素晴らしい言葉も、人に生かされることにこそ価値があると思うのです。

しかし、この言葉は、あの海軍でも戦争という状況でも、とても大切にされていたことを考えると、本当に価値ある真実を言い当てているとも思います。怒鳴ったり殴ったりしても人が動くことはなく、委縮したり思考が停止した言いなりの人間にしかならないことが分かっていたのでしょう。自分の頭で考えられず、判断できない人間が集まっても、強い集団はできません。あの軍隊ですら、「丁寧に褒めて育てる指導」が本当は有効だということ、少なくとも軍のトップの一人が認識していたことは確かです。学校、家庭、地域と子どもに接するすべての大人がもう一度襟を正し、美しい姿を示して、子どもの活動を余裕持って褒めながら導いていく姿勢を大切にしていきたいと思います。

今月は児童虐待防止推進月間でもあります。大きな心をもって子どもを守っていききたいと思います。ご協力をお願いします。

《校長室からお勧め本③》

今月は子どもも親も、感情のコントロールを視点に推薦本をご紹介します。

「0歳から思春期までのEQ教育」ジョン・ゴットマン著（講談社）です。EQとはIQ（知能指数）に対する言葉として、「心の知性、心の知能指数」としてよく使われます。子どもの感情をどう理解し、親はどうすべきなのかという「心のコーチ」の仕方を理解できます。発達心理学を基本にしながらも、とても読みやすい翻訳本です。

11月の生活目標

粘り強く最後までがんばろう

- ・仕事を協力してやりとげよう。
- ・感謝の気持ちを表そう。（ありがとう）

